

No. J2324
『メコン川下流デルタにおける古代の環境と社会生活の復元 ：ベトナム南部・オケオ文化の集落址ニョントイン遺跡の調査』
金沢大学大学院 人間社会環境研究科 博士課程 NGUYEN Hoang Bach Linh
2023 年のニョントイン遺跡の考古学的発掘調査は、過去の発掘調査の研究 成果との関連付けに貢献し、遺跡の文化的特徴、年代、発展過程についてより 明確な理解をもたらしました。特に注目すべきは、古代の居住者の高床式住居 における 2 つの初期の定住段階を特定した点です。これらの段階は、紀元後 4 世紀初頭から 6 世紀半ばまでの年代的枠組みを持ち、7 世紀後半以降と推定さ れる後の段階の盛り土の層も伴います。これらの観察結果は、様々な文化層か ら採取された 8 点の木材と炭化物のサンプルを用いた日本の 2 つの研究所で の AMS 年代測定の結果と、土器の型式学的比較との組み合わせによって補強 されます。 この発掘調査では、日本の専門家の協力を得て、ニョントイン遺跡で初めて のマイクロマテリアル研究と詳細研究に向けて、学際的かつ新しい方法を採用 しました。フローテーションと湿式ふるい分けによりサンプルを慎重に処理 することで、従来の発掘方法では見落とされていた文化層のマイクロマテ リアルサンプルを収集することができました。これには、動物骨、魚骨、炭 化米、植物種子、植物樹脂、ガラスビーズ片などが含まれます。また、専門家 は発掘トレンチの考古学的文化層から土壌サンプルを採取し、磁化分析や花 粉分析、珪藻分析を行いました。さらに、発掘トレンチの底部の自然堆積層か ら深さ 3m の地質コアドリルサンプルも採取しました。これらのサンプルは、 事前処理を経て日本とベトナムの研究所に送られ、2024 年に分析が行われる 予定です。 出土遺物の分類とサンプルの分析を通じて得られる詳細研究の結果は、ニ ョントイン地域の地質形成過程に関する認識や、ニョントインの自然・環境条 件および古代オケオのコミュニティの到来と定住前後の時間経過に伴う変 化、そしてオケオ時代におけるニョントインの古代の居住者のセトルメント パターン、生活様式、生業を解明する上で極めて重要な情報を提供するもので す。